



2023年11月1日  
第54号

# JR東労組 Yokohama

JR東労組横浜地本

発行人 助川一実  
編集 情宣担当  
ホームページ



<http://www.jreu-yokohama1.jp/>

# 申7号 2023年度年末手当等に関する申し入れ

## 第1回団体交渉終了！ 第2回団体交渉日程決まる！

### 業務部速報

No. 27  
発行 23.11.1  
JR東労組 業務部

#### 申7号 2023年度年末手当に関する申し入れ 年間6ヶ月以上の年末手当を求め！ 第1回団体交渉を行う！①

##### 組合

JR東労組は安全第一に魅力の持てる職場の構築をめざし取り組みをつくり出している。各種施策や諸課題の解決に向け職場議論を積み重ね、真実から建設的な議論を行い、健全な労務関係の構築と経営基盤を確立し、会社の発展と労働条件の向上に向け、労務議論を積み上げてきている。組合員・社員の日々のため努力が結実し、昨年と比べて業績の大幅回復を実現した！労働と生活の実感や実態は年々厳しさを増し「コロナ禍前以上」との悲鳴な声もあがっている。この年末手当交渉は注目度も期待度も高いことを労使で強く認識し、交渉を積極的にこなしていくことを目指す。

##### 労務実態・実態

- 2023年3月期第2四半期決算は、連結決算 増収増益。全てのセグメントが増収増益。単体決算においても営業利益対前年比116.7%、営業利益対前年比283.7%、四半期純利益対前年比310.6%と大幅に回復している。
- お盆期間中の新幹線・在来線のご利用状況(主要16区間計)前年比147%、運輸収入はコロナ禍前と比べて約90%の水準。乗客の大きなポイントとなる新幹線輸送も好転し推移している。
- 鉄道事業におけるオペレーションコスト削減の取り組みも地道に積み重ね、2019年度比1000億円削減目標も現時点で達成できる見通し。
- キーワードの一つ「インバウンド」、運輸事業中のインバウンド収入は9月時点で141億円。駅や車内に留まらずインバウンド対応を強化し収益に繋がってきた。9月の訪日外客数は200万人を超え、回復率は大幅に上回っている。

##### 会社情報

- 10月の月別経理報告では、国内景気は「緩やかに回復している」判断を維持。企業の業況判断は「総じてみれば緩やかに改善している」と上方修正。
- 8月の毎月労働統計調査(速報)は、一人当たりの賃金は物価を考慮した実質で前年同月比2.8%減少で、17カ月連続のマイナス。約1年、物価高による生活苦に陥っている状況。
- 9月の消費者物価指数は、依然として食品の値上がりが顕著で、生鮮食品を除く(食料)は前年同月比8.8%上昇と高止まり。「経済・物価情勢の展望」でも24年度は2.8%の上昇率となっている。

##### 生活実態

●23春闘で3年ぶりのベースアップが実現されたが、要求とは大きく乖離した回答。夏季手当も2.5カ月+5万円。実質賃金が大きく目減りしているだけでなく、定期昇給がなくなり生計も厳しくなっている。

●年末手当が生活給になっている現実もある中、年末手当がコロナ禍前より低額支給という現実。年末手当においても歴史的な物価高も踏まえた労使交渉を積み上げてきた経過も踏まえ、物価上昇に賃金が追いつかず生活苦が続く、生活が向上していない実態と実態を重視し、それに応えることが会社の責務と考える！

### 業務部速報

No. 28  
発行 23.11.1  
JR東労組 業務部

#### 申7号 2023年度年末手当に関する申し入れ 第1回団体交渉を行う！② 年間6ヶ月以上の年末手当を求め！

##### 労務実態・実態

- 駅窓口の廃止・業務委託化、車両検査体制の見直し、スマートメンテナンス、ワマン運転の拡大と施策に加え、現場後援における企画業務や、運転士と車掌の相互運用、「連携と融合」で多能化が進み、一人二役、三役以上となり、労働密度は高まり続けている。
- 厳しい労働実態に拍車をかけているのが要員不足の問題だ。定年退職に加え、離職者増・採用減など、医療現場を含めて系統を問わず「人が足りない」と悲鳴な声があがっている。日々の要員を確保することにも苦勞し、生活設計も成り立たなくなるほど厳しい労働環境になっている。
- エルダー組合員も厳しい環境の中、グループ会社も下支えしている。
- 先般早急な施策によって、不満や不信感が湧き出ていると言わざるを得ない。

組合員・社員の「働き度」は高まり続け、職場現実も含めコロナ禍前以上の労働実態・実態となり、社員数が大幅に減少しているなか、一人当たりの売り上げは過去最高となることを認識する。社長名でグループ社員の皆さんへ、が配られたが、職場現実を重視して受け入れ、組合員・社員のたゆまぬ努力を年末手当の主たる要素とすべきだ！

今年度夏季手当交渉では、コロナ禍を乗り越え3期ぶりに黒字転換した努力に報いるべきと訴えてきた。会社の持続的な発展を実現するために、賃金で応えるべきだと強く求めてきた。組合員・社員は会社の発展をめざし、変革に向き合い続けている！現場目標を大切に、会社も主役としている組合員・社員の奮闘に応え、大切に経営姿勢を示していただき、要求実現を強く求める！

#### 会社はコロナ禍前に戻す気はないのか！！

- ◆安全・安定輸送、日々の業務遂行、組織再編、「融合と連携」の様々なチャレンジに感謝申し上げる。
- ◆第2四半期決算が発表され本業の力を示す営業利益は単体1550億円となり黒字を計上することができた。
- ◆営業費用が増加している。黒字の水準はコロナ禍前の半分程度になると見込んでいる。目標達成にはより一層の増収とコストダウンを推進していく必要があると考えている。
- ◆コロナ禍前の業績の水準には及ばない経営状況である。変革2027で想定した人口減少等当社を取り巻く経営環境に変わりはないと依然として厳しい状況にある。
- ◆本業の力を示す営業利益がコロナ禍前の水準に及ばないという冷静な受け止め、当社を取り巻く経営環境をしっかりと認識すると共に、過期の目標達成には更なる増収・コストダウンの取り組みを始め、生産性向上による経営体質の強化に向けた果敢な努力が必要である。
- ◆社員の皆さまには、モードチェンジに踏み出して新たな取り組みを進めて頂いている。変革2027の達成に向けた更なるスピードアップが必要である。会社の持続的な発展が社員還元となる充実、働きがいの向上、社員・家族の幸福の実現に繋がっていくという考えを前提に、支給水準は直近の業績動向を念頭に置き、今年実施した29年ぶりの平均5000円を超える水準の基本給改訂、仕事と育児の両立支援のさらなる推進の迅速改善等の状況も踏まえ、総合的に勘案していただく必要がある。

第2回団体交渉は11月7日！

## 緑の風 NEWS

East Japan Railway Workers' Union 2023年10月31日 No. 38

### 第2四半期決算(2023.10.31発表)

# 大幅回復

#### ■第2四半期決算 (特徴点)

単体	2023.9実績	2023.9/2022.9
営業収益	9573億円	116.7%
(運輸収入)	8286億円	122.0% <b>注目!</b>
(その他収入)	1286億円	91.4%
営業利益	1550億円	283.7%
経常利益	1303億円	366.0%
四半期純利益	936億円	310.6% <b>注目!</b>

JR東労組は大幅回復を成し遂げた組合員・社員の声を  
団体交渉で会社に主張します！

会社は大幅回復を成し遂げた職場の努力に報い  
JR東労組要求3.7ヶ月に満額回答すべきだ！

# 第2回団体交渉日:11月7日(火)

第2回団体交渉は、職場現実・実態、現場での奮闘を訴えて行く場になります！職場活動を通じて、組合員・社員の想いを積み上げて本部交渉団を  
支えていこう！

**大幅回復した第2四半期決算を見ても「支払い能力」は充分にある！**  
**過去最高の働き度に対して、会社は過去最高の回答で応えるべきだ！**